

第 4 号議案

社会資本整備総合交付金事業(下水道)

りゅういきげすいどう にしおうら しよりく

流域下水道 西邑楽処理区 太田市ほか3町

着工年度
評価理由

平成3年度
再評価後10年経過

1. 事業の目的

- ・周辺住民の快適な生活環境を保護するとともに、進行しつつあった公共用水域の水質悪化を防止するため、発生する汚水を処理する。
- ・事業進捗による供用開始区域の拡大に伴って、年々増加していく汚水を適正に処理する。
- ・これらの目的を達成するため、汚水を収集する管きょの敷設および処理施設能力の増加(水処理施設、汚泥処理施設等の増設)を段階的に図る。



2. 事業概要と進捗状況

事業概要

事業場所	おおたし ちよだまち おおいずみまち おうらまち しちょう 太田市、千代田町、大泉町、邑楽町(4市町)		
区分	今回	H15年 計画変更時	前回再評価時
全体事業費	40,500百万円	45,900百万円	52,000百万円
全体事業費増減の理由	計画人口の減少に伴い 処理施設が減ったため	計画人口の減少に伴い 処理施設が減ったため	-
事業期間	H3年度～H38年度	H3年度～H27年度	H3年度～H22年度
事業内容	処理面積 3,256ha 処理人口 91,016人 処理水量 51,200m ³ /日 水処理施設 3系列	処理面積 3,256ha 処理人口 98,050人 処理水量 63,930m ³ /日 水処理施設 5系列	処理面積 3,236ha 処理人口 136,500人 処理水量 81,970m ³ /日 水処理施設 6系列

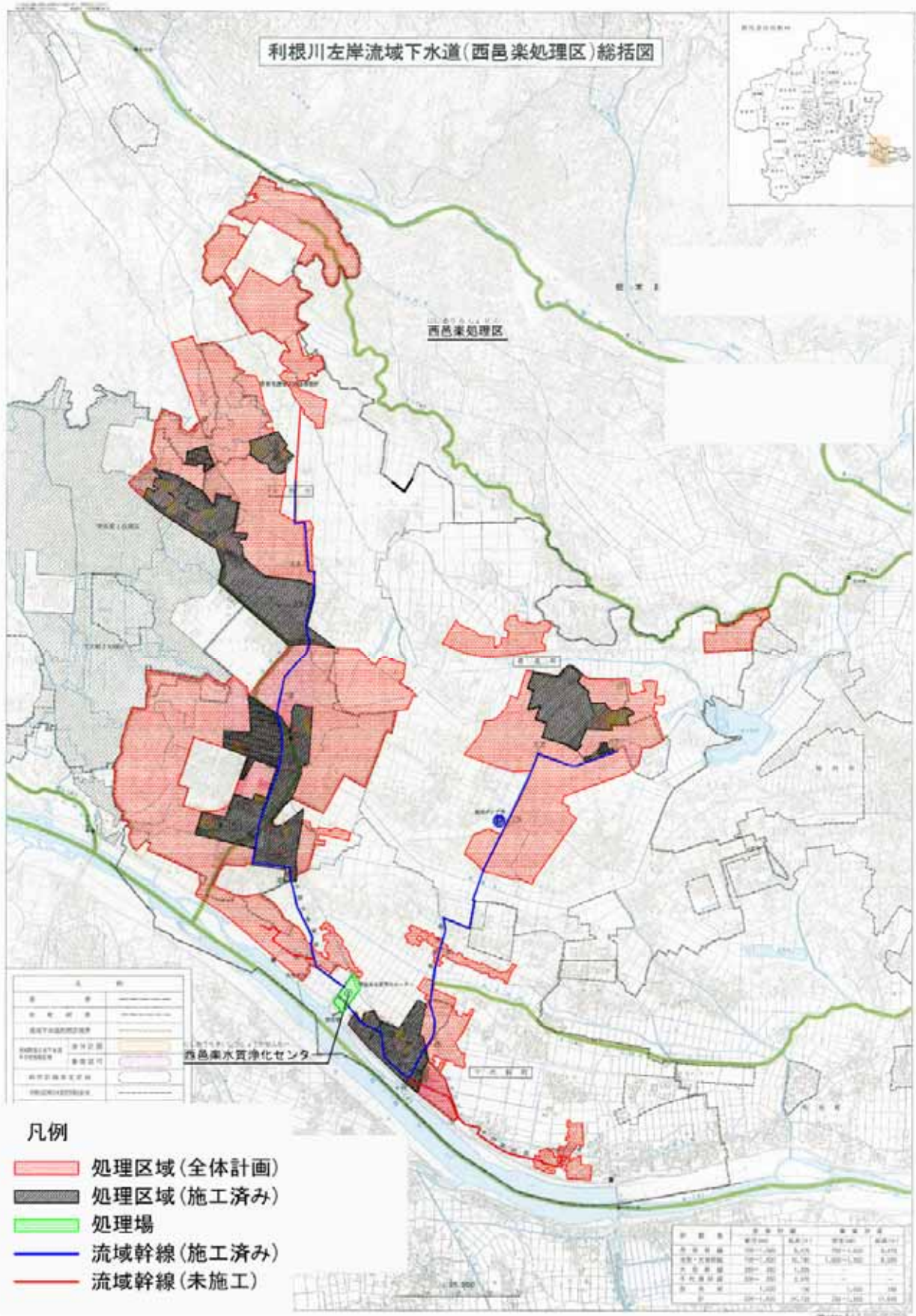
事業経緯

年度	主な経緯
H3	利根川左岸流域(西邑楽処理区)として事業着手
H10	全体計画の見直し(処理面積)
H12	供用開始
H15	全体計画の見直し(処理面積)
H22	全体計画の見直し(処理人口)

進捗状況

	全体計画	現在の進捗状況(進捗率)	前回評価時の進捗状況(進捗率)
事業費	40,500百万円	27,000百万円 (66.7%)	23,300百万円 (57.5%)
整備済み面積	3,256ha	690ha (21.2%)	226ha (6.9%)
処理能力(日最大)	51,200m ³ /日	10,216m ³ /日 (20.0%)	6,833m ³ /日 (13.3%)
管渠延長	24,959m	19,448m (77.9%)	16,500m (66.1%)

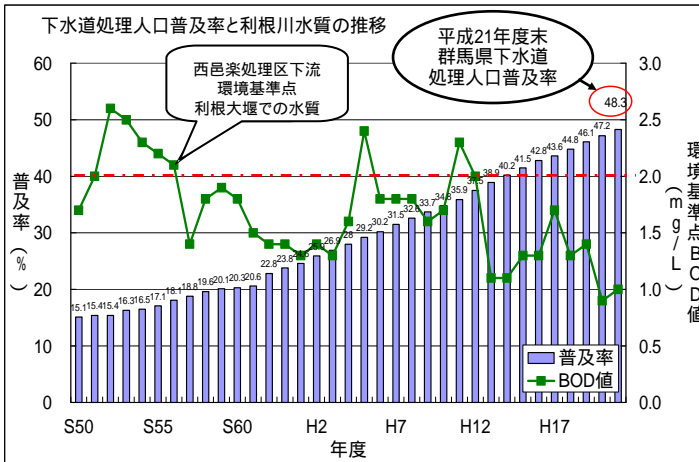
2. 事業概要と進捗状況(図面・写真等)



3. 事業の目的・必要性に変化はあるのか？

当該区域における生活環境の改善及び公共用水域における水質汚濁の改善を目的とした事業である。産業の発展や生活様式の近代化および環境保全への関心がますます高まっている現在においても、本事業を継続していくことが必要である。また、利根川を水源とする下流都県への良好な水環境の形成に対しても、上流部に於ける本事業の責務は大きく、水質環境基準を達成するために定められた利根川流域別下水道整備総合計画の推進に必要不可欠な事業である。

4. 目的を達成するための事業(手段)は適当か？



事業計画に定めたスケジュール、事業量を計画に基づき執行しており、区域の整備に応じて供用を図っている。当該区域の下水道水処理人口の伸びと、直下流の環境基準点における水質(BODの推移)は下水道の整備にともなって、年々改善傾向にあり、生活環境の向上や水質保全に大きな効果を発揮している。

下水道処理人口普及率の上昇とともに、水質改善の傾向がみられる。

西邑染水質浄化センター放流先直下の環境基準点(利根大堰)における水質(BOD)の推移

費用便益分析

		計画・前回再評価時		今回再評価時		備考	便益説明
算出根拠マニュアル		下水道事業における費用効果分析マニュアル		下水道事業における費用効果分析マニュアル		現在価値比較法(前回簡易比較法による)	
基準年		平成11年度		平成22年度			
区分	項目	簡易比較	構成比	現在価値	構成比		
費用(千円)	工事費	7,032,300 / 年	90.8%	117,919,000	91.2%	市町の整備費用、完成後50年までの改築更新費を含む	
	維持管理費	711,000 / 年	9.2%	11,433,000	8.8%	市町の維持管理費を含む	
費用合計(C)		7,743,300 / 年		129,352,000			
便益(千円)	周辺環境の改善効果の便益	-	-	148,041,000	70.7%	下水道が整備されない場合の中小水路の覆蓋等にかかる費用	
	居住環境の改善効果の便益	9,074,900 / 年	100%	61,223,000	29.3%	下水道が整備されない場合の浄化槽の設置、維持管理費にかかる費用	
便益合計(B)		9,074,900 / 年		209,264,000			
費用対効果分析(B/C)		1.17		1.62			

5. 事業が長期間要している理由は？

【元々が長期計画】

不測の事態により長期化】

当事業は、群馬県東部の4市町(太田市、千代田町、大泉町、邑楽町)を対象範囲としており、事業区域は非常に大きく、当初立案した整備計画においても長期間を見込んだ計画としている。

本流域下水道は、構成する関連市町が整備する関連公共下水道の進捗ならびに各家庭の下水道への接続の進捗に合わせて整備する手法を用いているため、長期計画となっている。

6. 事業の対応方針は？

事業継続

事業中止

変更なし

事業計画の変更

スケジュールの変更

当該区域における生活環境の改善及び公共用水域における水質汚濁の改善を目的とした事業であり、現在、67%まで進捗している。

将来人口の見直しの検討を行った結果、減少傾向を示すことから、現状に見合った全体計画人口を設定した。併せて処理水量も減少することから、処理施設の規模を縮小(水処理施設12池を6池へ変更)し、過大投資を避けた適切な事業計画の変更を行っている。

事業全体は長期的な計画となるが、段階的な整備と供用開始を行うことで、効率的かつ早期に事業効果が得られるよう配慮している。また、初期供用までの投資を抑える事ができ、未使用な施設の建設を行わないという利点がある。

流域下水道による下水道整備は、事業の効率性、経済性において各市町が個別に設置する単独公共下水道よりも有利であるが、その規模と効果を有意義に活用するため、長期計画とならざるをえない。

事業効果の早期達成を目指し、関連市町の下水道整備の促進や、接続率向上を推進しながら事業の早期完成を目指す。